

一橋ビジネススクール 教授
MBAプログラムディレクター

鈴木 智子

Suzuki Satoko

職歴

日本ロレアル(株)、ボストン・コンサルティング・グループに勤務した後、一橋大学大学院国際企業戦略研究科修士(MBA)、同博士後期課程(DBA)修了し、博士(経営学)を取得。
京都大学大学院経営管理研究部特定准教授を経て、現職。

専攻分野

消費者行動論、マーケティング

社会や組織、人の行動をめぐる現象を、構造的・論理的に読み解く研究者。

複雑な社会課題を感情論に流されず、背景や前提を整理しながら分かりやすく解説する姿勢に定評がある。

メディアでは、議論を落ち着かせ、視聴者の理解を助ける信頼性の高い識者として紹介されることが多い。

WORKS



外部委員等

経済産業省「グローバルサービス創出研究会」「おもてなし経営企業選」「物価高における流通業のあり方検討会」委員。
東京女性経営者アワード審査委員およびアドバイザー等を歴任。
日本マーケティング学会理事、日本消費者行動研究学会理事。

メディア出演歴

Live News α(フジテレビ系)に経済ニュースのコメンテーターとして出演中の他、日本経済新聞の「Think!」にも専門家として投稿している。

著書

『イノベーションの普及における正当化とフレーミングの役割』(白桃書房)『世界のラグジュアリーブランドはいま何をしているのか?』(監訳)(東洋経済新報社)など

最近の記事

デジタル時代のリテール・コミュニケーション:「モノを売る」から「共感をつくる」へ | アド・スタディーズ | 公益財団法人吉田秀雄記念事業財団
鈴木智子氏が語る「マーケティングの民主化」で変化した消費者行動とチャンス | Japan Innovation Review powered by JBpress
デジタル時代の小売企業に必要な「未来シナリオ」 | Japan Innovation Review powered by JBpress
「買いたい」をどうつくるか 鈴木智子氏 - 日本経済新聞
インフレ下の小売り 自社の強み生かす王道を 鈴木智子・一橋大学教授 - 日本経済新聞
コンビニエンスストアの未来(下)「日本型」が海外で強み 鈴木智子・一橋大学准教授 - 日本経済新聞
鈴木智子さん 自己実現へ、仕事を「利用」しよう - 日本経済新聞



最近の記事

Tong et al. (2021). The Impact of Gender Role Orientations on Subjective Career Success: A Multilevel Study of 36 Societies. 2021 WAIB Best Paper Award.

Suzuki, S., & Park, J. (2020). Consumer evaluation of healthy, unpleasant-tasting food and the post-taste effect of positive information. 日本商品学会 奨励賞

Suzuki, S., Hamamura, T., & Takemura, K. (2019). Emotional fortification: Indulgent consumption and emotion reappraisal and their implications for well-being. Journal of Consumer Behaviour, 18(1), 25-31, DOI:10.1002/cb.1746. Top 10% Most Downloaded Papers (2018-2019).

鈴木智子・阿久津聡(2016)「グローバル・ブランドのブランド・パーソナリティ国際比較評価」日本マーケティング学会 オールセッション2016 / ベストペーパー賞

鈴木智子(2015)「消費の意味創造システムにおけるメディアの役割の再検討:メディアによる意味の創造」(2012年商品研究第 58巻 3・4号)日本商品学会 奨励賞

藤原健・竹村幸祐・鈴木智子(2014)「笑顔が人をダメにすると受け手の創造性に対する影響と接近・回避志向による調整効果」日本心理学会 優秀発表賞

鈴木智子(2011)「イノベーションの普及と正当化プロセス:『自分へのご褒美』消費の普及を事例にして」一橋大学IIRサマースクール 研究発表優秀賞



マネージャーから見た 鈴木智子のパブリックイメージ

鈴木智子教授は、番組の理解度と安定感を同時に引き上げてくれる、
制作側が最も信頼できるタイプの専門家です。

一橋大学教授・鈴木智子は、現代社会の複雑な変化を、感情論や表層的な善悪に回収するのではなく、構造と前提から丁寧に読み解く研究者である。

研究者としての確かな学術的基盤を持ちながら、その知を専門家の世界に閉じることなく、講演やシンポジウム、メディアを通じて社会へと開いている点も特徴のひとつ。複雑なテーマであっても、背景・構造・論点を順序立てて語るため、専門外の視聴者や聴衆にも理解しやすく、「話を聞いて初めて整理できた」と感じさせる解説に定評がある。

講演やシンポジウムでは、専門的な内容を分かりやすく再構成し、聴衆が「どう考えるべきか」を理解できる視点を提示。

メディアにおいては、番組の空気を落ち着かせ、視聴者の理解を助ける信頼性の高い識者として紹介されることが多い。



アピールポイント

構造から整理する、 わかりやすい解説力

複雑な社会課題を感情論に流さず、背景・前提・論点を整理 伝える力。

短いコメントでも“腑に落ちる理解”を生み出せる。

番組の品格を保つ、冷静で 信頼感のある存在

強い主張で前に出るのではなく、議論を整え、番組全体のトーンを安定させる。

夜帯・報道番組に起用しやすい希少な識者。

編集・ナレーションに 落としやすい発言

発言が簡潔で構造的なため、テロップやナレーションに加工しやすい。

制作現場から「使いやすい」と評価されるコメント力。



鈴木智子教授は、難しい話題でも一つひとつ丁寧に整理し、聞く人が自然と理解できるよう導いてくれる研究者です。
落ち着いた語り口と誠実な姿勢が印象的で、講演やメディアの場でも、安心してお任せできる存在だと感じています。